

川合産婦人科



Four seasons news letter

出版元

医療法人川合産婦人科 事務局 愛知県名古屋市西区坂井戸町 191 TEL:052-502-1501

季節のお便り

妊娠第14週目（4ヶ月目） 食べすぎに注意を！

今後は食べすぎ注意です。食べれなかつたり、食べれたりと、妊婦さんの食欲はまるでジェットコースターのようにアップダウンしてきました。ここから先は食べ過ぎに注意してくださいね。「あかちゃんが食べたいって言うてるから」よく聞くセリフです。

医師は妊婦さんの体重コントロールを大変重要と考えています。食べ過ぎ・太りすぎは体重増加によるリスク増だけではないのです。体重が増える原因として、高カロリー摂取が考えられます。高カロリーと言われているものには、糖質以外に高塩分のものがあります。婦さんの



子宮底長（子宮底と呼ばれる恥骨の位置から子宮上部までの距離）を測定した長さを母子手帳へ記入し、その大きさから妊婦の進捗や状態を推定します。現在は超音波検査によりあかちゃんの様子がダイレクトにわかるので、子宮底長は補助的な検査として行われているようです。

塩分過剰摂取は良くありません。ポテトチップスなど高塩分を控えた上手な「CAFÉタイム」を過ごしてください。

あかちゃんは、顔の筋肉がムニムニと動き始め笑顔の練習中です。羊水の中で声は出ませんが、声帯には工事中の看板が掛かっており、産後の「おぎゃー」をちやくちやくと準備しています。体長は10cm前後。体重は55g。ランチタイムのご飯茶碗一杯が150g・235g。その1/3程度の重さです。

「卵管造影検査」による思わぬ副産物 卵管が通りやすくなり、妊娠。

卵管閉塞・狭窄とは？

当院は病院ですので、科学的な実証から診断や治療を行います。巷でうわさの「卵管造影検査」後の自然妊娠確立アップについてお話ししましょう。まず、結論から言うと不妊治療として卵管造影を行うことで「自然妊娠」を誘発しやすくなるかは「No」です。但し、卵管閉塞・狭窄の症例では、卵管造影を行うことで一時的に卵管の通りが良くなり、自然妊娠をしやすくなる場合もあります。不妊治療では、婦人科的診察として内診、スミア、超音波検査、クラミジア感染症検査、ホルモン検査、基礎検査、「子宮卵管造影」、精液検査があります。それらの検査と診察により、卵管閉塞・狭窄の症状が見られた場合、卵管造影により通りが良くなりましたという結果、自然妊娠が来たという方がいらつしやいます。1年以上妊娠しないご夫婦の場合、卵管が通っているかどうかを調べる子宮卵管造影検査を早い時期にお受けになることをお勧めします。卵管は微生物の感染によって閉塞を起こしやすい場所です。

最近増加傾向のクラミジアという病原体の感染によって閉塞を起こすことは知られています。そのほかにも淋菌や大腸菌などの感染によっても閉塞は起こります。クラミジアに感染しているか（しているか）どうかは、採血によって調べる事ができますので、不妊症の基礎検査となります。

また、卵管や子宮、腹腔内にくきた子宮内膜症という病気や、以前受けた手術による癒着などによっても、卵管の癒着や閉塞を起こすことがあります。

もっと身近な

川合産婦人科を目指して

当院はこの名古屋市西区で45年間、お母さんの代からお孫さんまでをサポートするために産婦人科として営んでまいりました。時代と共に環境は変わって参りますが、当院は親切・丁寧をモットーにみなさまへ貢献できればと存じております。

当院は本年度よりホームページを活用して、様々なお知らせを発信してまいります。